

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の国語の未来へバトンをつなぐ



令和元年11月発行
西部教育事務所

11月6日(水)に第2回国語科授業づくり講座「授業者研究会」が大方中学校で開催されました。9月25日(水)に開催された「教材研究会」での助言を基に、資質・能力の育成に向けた説明文での授業づくりの様子を紹介します。



西部管内の
講座関係のHP

【提案授業】中学校1年「筆者の考えを基に、人間の生活と生き物の環境との関係について考えたことを伝え合おう ～文章の内容や構造を把握し、根拠を明確にして自分の考えをまとめる～」 (教材名:「幻の魚は生きていた」1年光村図書)

【授業者】 能津 利尚 教諭 (黒潮町立大方中学校)

I 大方中からの提案

根拠を基に自分の考えをもつためには、自分の考えを述べるために何を根拠とすることがふさわしいのか、ということを考えることができなければならない。しかしながら、その根拠としたい説明文の内容や構造が把握できなければ、どこが根拠としてふさわしいのかの判断がつかない。自分の考えを形成する力を付けるために、学習過程の中で未定着である既習の学びを補いながら、付けたい力に向けた学習過程をどのように描いていくかを検討する必要がある。

〈単元で付けたい資質・能力〉

文章の構成や内容を把握した上で、根拠を明確にして自分の考えを持つ力 (読むこと(オ)考えの形成)

《協議の視点》

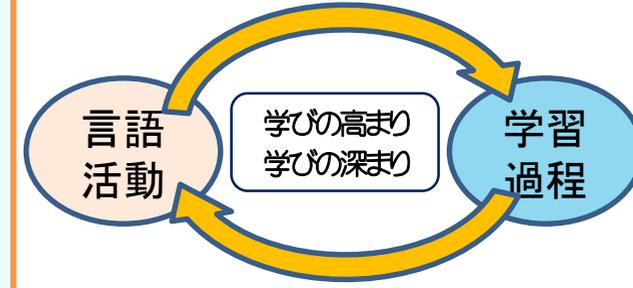
- (1) 資質・能力の育成に向けた単元構想
- ・育成したい資質・能力の設定
 - ・生徒の実態の把握
 - ・学習過程を描く



授業者
能津 教諭

- (2) 付けたい資質・能力に基づいた言語活動
- ・言語活動の充実を図る学習過程を描く

III 言語活動の充実を図る学習過程



育成したい資質・能力に「向かい子供が主体的に学ぶためには、**子供の実態や課題に即した言語活動を設定し、各学習過程における学びと密接に関連付けることで学びの質が高まる。**

before

学習過程	学習活動
1	①単元の学習活動とめあてを把握し、学習の見通しをもつ。 ②文章を通読し、おおまかな内容をとらえる。 ③振り返り感想を書く。
2	①めあての確認 ②文章を序論・本論・結論に分け、キーワードを見つける。 ・各段落の中心となる語や文を捉え、段落の構成について考える。 ③振り返り
3	①めあての確認 ②文章構成図をつくる。 ・接続語や文末表現等に着目し、段落どうしの関係やつながりを考える。 ・文章構成図をつくることによって内容を理解する。 ③振り返り
4	①めあての確認 ②文章の要旨を二百字程度にまとめ、読んで理解したことに基づいて、自分の考えを文章にする。 ・文章構成図をもとに根拠を明確にして、自分の考えを持つ。 ③最初に書いた感想と比較して自分の考えを振り返る。
5	①めあての確認 ②書いた文章を班で交流し、再度自分の考えを問いただす。 ・交流を通しての気づきや考えたことを基に、自分の考えを深める。 ③今回の学習での感想を書く。

II 単元構想

- (1) 主体的な学びと振り返りの充実につなげるために個人のめあてを設定する。
- (2) 構成を捉えることは課題ではあるが、既習の学びであるため自分の考えの根拠として活用することを意図して位置づける。
- (3) 自分の考えを広げたり深めたりするために、考えを示すための観点を踏まえて考えの再構築等につなげる。

after

学習過程	学習活動
1	・個人のめあてを設定する。 ・筆者の主張を考える。 ・感想を書く(疑問・反論・共感・納得)。
2	・個人のめあてを設定する。 ・文章を序論・本論・結論に分ける。 ・文章構成図を個人で作成する。
3 (本時)	・個人のめあてを設定する。 ・把握した内容を基に再度、新たな又は確かになった疑問、反論、共感、納得することがないか根拠を明確にして考える。
4	・個人のめあてを設定する。 ・筆者の言葉の使い方や資料の使い方に着目し、考えたことを基に、疑問、反論、共感、納得という観点で自分の考えを再考する。 ・自分の考えの根拠となった言葉等を探す。 ・写真やその他資料の使い方について考える。
5	・個人のめあてを設定 ・筆者の主張を基に「人間の生活と生き物の環境との関係について」根拠を明確にして自分の考えを書く。 ・班で交流し、友達の考えと自分の考えを比較して気づいたことをメモし、伝え合う。

共有

考えの形成

精査解釈

構造と内容の把握

見方・考え方を働かせる子供の姿

言語活動

・考え方が同じでも理由や根拠は一つじゃないんだな。新たな考えにつながったな。
・筆者の考えに共感しかなかったけど、友達の考えとその根拠を聞いて考えがより深まったな。

・環境を変えるのは「一瞬」だからこそ元に戻すことも慎重に考えるべきではないか。
・人間の生活を守っていくためには、生き物と共存する方法がないかを考えることが大切だ。

・自分の考えの根拠となるのは、どの情報かな。
・筆者の考えを踏まえて、自分の考えを友達に伝えるために根拠となる部分を見つけ出そう。

・二つの中心文は本論のこのまとまりと対応しているのだな。
・筆者の主張は「人間の生活と自然環境の共存が大切」ということなんだな。

Ⅳ「本時の授業」より



- ①本時のめあてを基に個人のめあてを設定する。
→主体的な学びへつなげる
- ②文章構成図をグループで確認し合う。
→構成と内容を把握する

- ③文章構成図を基に自分の考えの根拠を明確にする。
→根拠を明確にするために文章構成図を活用する

- ④自分の考え(疑問や反論、共感や納得)について明確にした根拠を全体で共有する。
→自分の考えと友達の考えやその根拠を比較する

- ⑤友達と共有した考えとその根拠を基に自分の考えを再考する。
→考えを再構成する
- ⑥最初の感想と本時で考えたことを比べて振り返る。
→自己の学びを自覚する

Ⅵ講師による指導・助言

【授業改善の第一歩として～文章構成図を導入しながら、授業を構想し展開する～】

◆文章構成図の3つの働き

- (1)教材研究のための道具(ツール)
- (2)子供が説明文を読解するための道具
- (3)子供が説明文の読解を通して言語活動に立ち向かうための道具

◆3つの働きを意図した授業づくり

- 文章構成図を作成するための技術は小学校5年生の前半までに身に付けておくべきものであり、5年、6年でその技術を活用し、言語活動に取り組みさせる必要がある。
- 中学校では小学校での学びを振り返らせながら、文章読解のための道具として文章構成図を作り、それを基に自分の考えを文章化する。

《文章構成図の活用を通して考えの形成へつなげる～指導事項の適切な位置付け～》

- 最初から生徒が作成した文章構成図の形にこだわるのではなく、まず言語活動の中で使わせることで、「使い勝手のいい形は何かを考え→便利な道具に変えていき→要旨をまとめることにつなげ→自分の考えにつなげる」ことができる。そうすることで、子供は文章構成図を作る目的を理解し、その後の言語活動に活用していこうとする意識につなげることができる。
- 考えの形成に容易につなげるためには、要旨を理解するための指導事項を位置付けるとよい。



講師 松永立志先生
前鎌倉女子大学准教授

Ⅴ「授業参観後の協議」より

良い点

- ・生徒が主体的になれる言語活動が設定されていた。
- ・個人のためめあてを持たせていたことが振り返りにつながっていた。
- ・考える視点が示されていたため、生徒は自分の考えをしっかりと書くことができていた。
- ・前時の考えを基に、文章構成図を活用して考えを深めようとしている点良かった。
- ・文章構成図を作成することで文章を俯瞰して見ることにつなげていた。

改善点

【文章構成図の活用について】

- ・単元構成を考える際、内容を捉えるための文章構成図の活用の仕方を検討する。
- ・考えを深めるうえで必要なツールであったかどうかを検討する。

【明確な根拠について】

- ・生徒に「根拠とは何か」を押さえさせるために、教科書の活用や根拠の示し方について例示があると良かった。

【授業展開について】

- ・生徒の考えを生徒自身に表現させ、それを基に生徒同士をつなぐやりとりを仕組むと良かった。
- ・考えを深めるために生徒が自身の変容を見取るための手立てがあると良かった。

～参加者より～

☆小学校の教員として、中学校の国語の授業について単元構成から話し合えたことを説明文の授業での押さえるポイントや日々の言語指導に活用させてもらいたいと思います。(小学校教諭)

☆小学校で身に付けた技能を中学校でもう一度学ばせるのではなく、既習の技能を把握して、それを活用させるような授業を考えていきたいと思いました。生徒に主体的に学ばせる手立てや課題提示の仕方を工夫したい。(中学校教諭)